

安心できる地域病院づくりすすめる ためにも政治の転換を **日本共産党**

7月23日、鈴木おさむ氏（衆院東京25区予定候補）と谷川智行氏（衆院東京比例区予定候補）は福生病院を訪れ、同病院の諸角（もろずみ）院長、大和事務長らと医師不足や地域医療の問題について懇談しました。羽村市からは鈴木たくや議員が同席しました。

現在建て替えまっさい中 — 10月1日に第一期オープン



新病院の完成予定図

福生病院は、羽村市・福生市・瑞穂町の3自治体がお金を出しあって経営している病院です。羽村市内には総合病院がないため、地域の拠点病院として、市民の健康を守る役割が求められています。

現在、老朽化した建物を建て替え中で、地上8階・地下1階のレンガづくり風の立

派な建物が、立ち上がっています。今年10月1日に第一期オープン、2010年1月に全面オープンする予定となっています。（第一期オープンでは、ICU〔特定集中治療室〕人工透析が未開院）

これまでの入院ベッド211床が、316床に増え、最新の医療機器が導入されます。建て替えや医療機器の購入などの費用は約157億円です。

深刻な医師不足 — 努力をかたむけ確保すすむ

建物の建設がすすむ中、課題は医師の確保です。3自治体が経営する形態へと変わった2001年ごろは十分な医師数が確保され、黒字経営が続いていました。

しかし、2004年に「新臨床研修制度」^{注1}が導入されたことをきっかけに、慶応大学病院から通っていた医師の引き揚げがおき、それ以来、慢性的な医師不足が続いています。特に内科医は本来8名ほどが必要ですが、一時期は常勤1名にまで減り、医師確保の努力

を続けた結果、現在は常勤2名・非常勤1名にまで増えてきました。（右表を参照）

医師不足の影響で、入院患者数の制限や、人工透析・分娩の中止などに追い込まれましたが、今年7月から分娩は通常どおりに戻っています。

しかし、人工透析は中止のままであり、産科医は月10回の当直をしなければならない状態にあるなど、ひきつづき医師確保にむけた努力が急務となっています。

共産党羽村市議団も市議会などで、医師確保にむけた真剣な努力を求めてきました。

先を見ない国の医療政策 — 「本当にそうです」と意見が一致



左から諸角院長、谷川比例区予定候補、鈴木おさむ25区予定候補（顔が見えている人のみ）

谷川予定候補は「地域医療の困難さは、国の医療政策に責任があります。」と指摘し、「『医師の数は足りている』と言って医師不足の解消に背をむけたり、診療報酬をつぎつぎ切り下げ病院を経営難に陥らせるなど、先を見ない政策をきり変える必要があります」と語りました。

大和事務長は「本当にそうですね。現場の努力はめいっぱいです。国のレベルでもう少し考えるべき」と応えました。

また、総務省が示した「公立病院改革ガイドライン」^{注2}では、経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直しなどを検討するよう指示されていることについて、「公立病院の存在理由を根本から否定されるようなもの」との意見で一致。さらに、西多摩地域

福生病院の医師数の推移
（括弧内はうち非常勤医師数）

診療科	3月31日	7月1日
内科	2(1)	3(1)
循環器内科	1	4
外科	8	9
整形外科	4	4
皮膚科	1	1
産婦人科	2	3
小児科	3	4(1)
眼科	1	1
脳神経外科	3	2
泌尿器科	2	2
歯科口腔外科	-	2
麻酔科	5	5
耳鼻咽喉科	1	1
研修医	-	1